



2020年10月29日

各位

会社名 株式会社エヌ・シー・エヌ
代表者名 代表取締役社長執行役員 田鎖 郁夫
(コード番号: 7057 東証JASDAQ)
問合せ先 取締役執行役員管理部門長 藤 幸平
(TEL 03-6872-5638)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年8月13日に公表いたしました2021年3月期第2四半期連結業績予想及び通期連結業績予想を下記の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

2021年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2020年4月1日~2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,099	百万円 69	百万円 69	百万円 40	円 銭 12.58
今回修正予想(B)	3,214	131	150	105	32.75
増減額(B-A)	114	61	81	64	
増減率(%)	3.7	87.7	118.3	160.4	
(参考) 前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	3,306	129	144	97	30.42

【参考】2021年3月期通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,620	百万円 180	百万円 191	百万円 125	円 銭 39.05
今回修正予想(B)	6,734	242	272	190	59.23
増減額(B-A)	114	61	81	64	
増減率(%)	1.7	33.9	42.8	51.7	
(参考) 前期実績 (2020年3月期)	6,610	229	258	181	56.62

2. 修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が、2020年8月13日に公表いたしました前回予想を大きく上回る見込みとなりました。

当第2四半期累計期間につきましては、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞により、業績への影響が強く懸念される状況を予測しておりましたが、構造計算出荷数は4月から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだものの6月以降は順調に回復したこと、SE構法出荷数は前年同期比6%の減少を見込んでいたものの同3%の減少にとどまったことが前回予想を上回る主な要因です。

利益面につきましては、営業利益は売上高が前回予想を上回ったことに伴う売上総利益の上振れに加えて販管費が減少したこと、経常利益は持分法適用関連会社の業績が想定を上回ったことにより、それぞれ前回予想を上回る見込みです。

(2) 通期

通期の連結業績予想につきましては、2021年3月期下期の連結業績予想数値について現在精査中であるため、下期の連結業績予想数値は前回発表予想数値を据置き、当第2四半期累計期間までの修正を反映した通期連結業績予想として修正いたします。

なお、通期の連結業績予想につきましては、配当予想と合わせて、修正が必要となった時点で速やかに開示いたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、監査法人による会計監査前の数値であるため、2020年11月12日（木）発表予定の決算短信と異なる結果となる可能性があります。

業績予想の修正に関する 補足説明資料

2020年10月29日
株式会社エヌ・シー・エヌ

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、監査法人による会計監査前の数値であるため、2020年11月12日（木）発表予定の決算短信と異なる結果となる可能性があります。

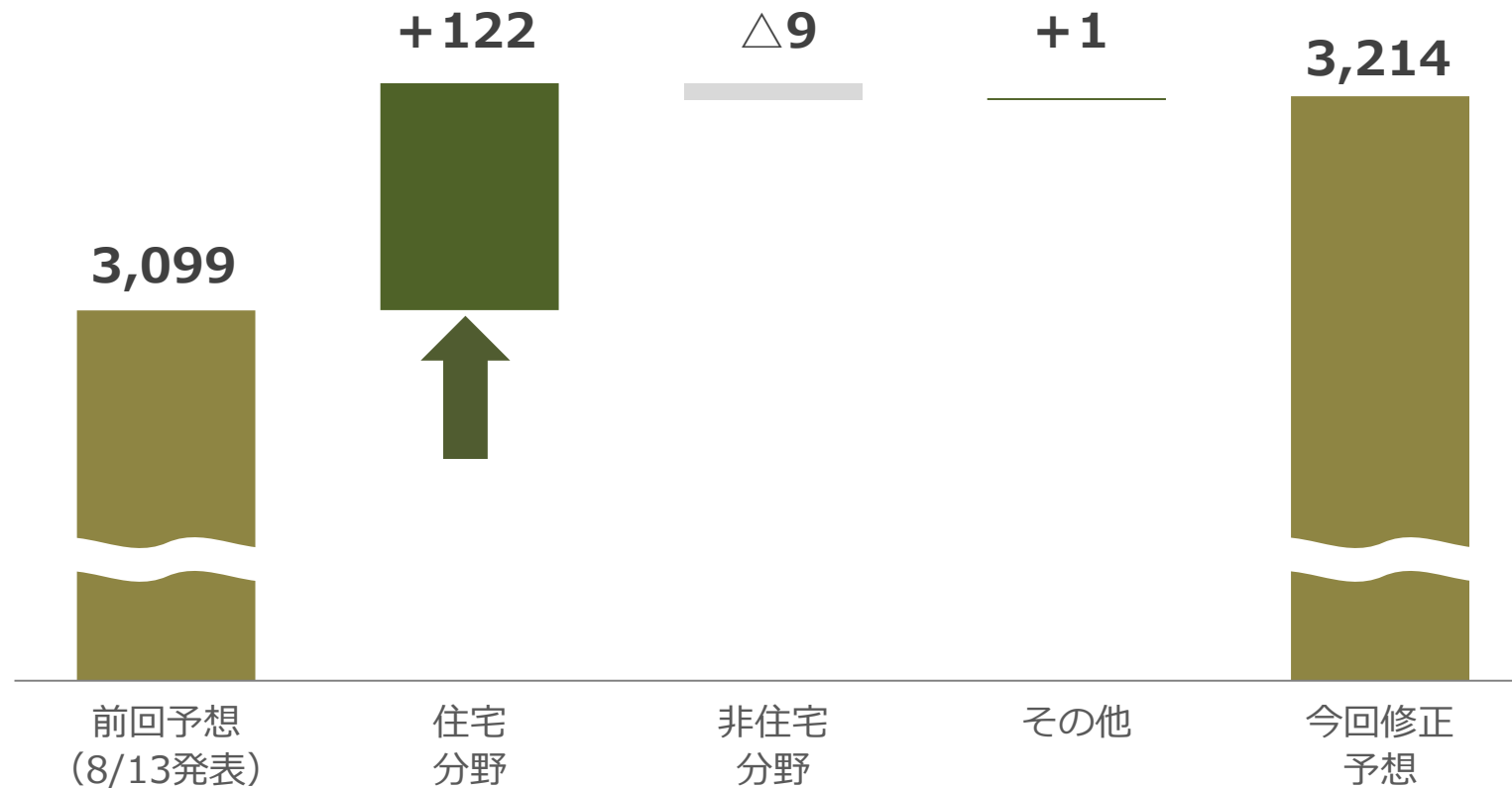
2021年3月期 上期連結業績予想の修正



(百万円)	21/3期 上期 修正予想	前回予想 (8/13発表)	対前回予想 増減	対前回予想 増減率	20/3期 上期 実績	対前期 増減	対前期 増減率
売上高	3,214	3,099	+114	+3.7%	3,306	△92	△2.8%
売上総利益	767	717	+49	+6.9%	779	△12	△1.5%
営業利益	131	69	+61	+87.7%	129	+1	+1.2%
経常利益	150	69	+81	+118.3%	144	+6	+4.3%
親会社株主に 帰属する当期 純利益	105	40	+64	+160.4%	97	+7	+8.2%

売上高の差異要因（対前回予想）

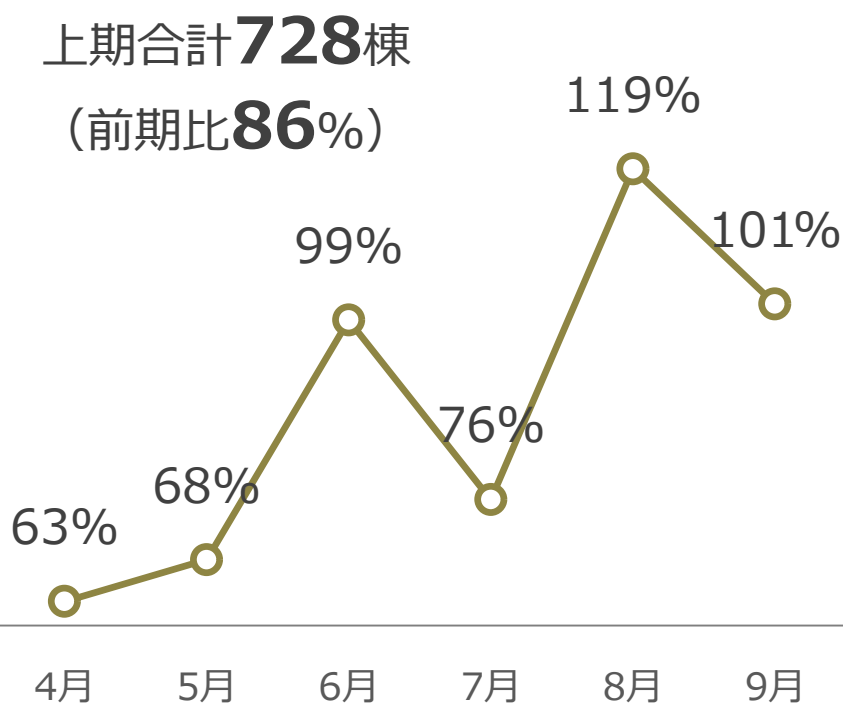
売上高が前回予想を上回った主な要因は、住宅分野が6月以降順調に推移し、想定を上回ったこと。



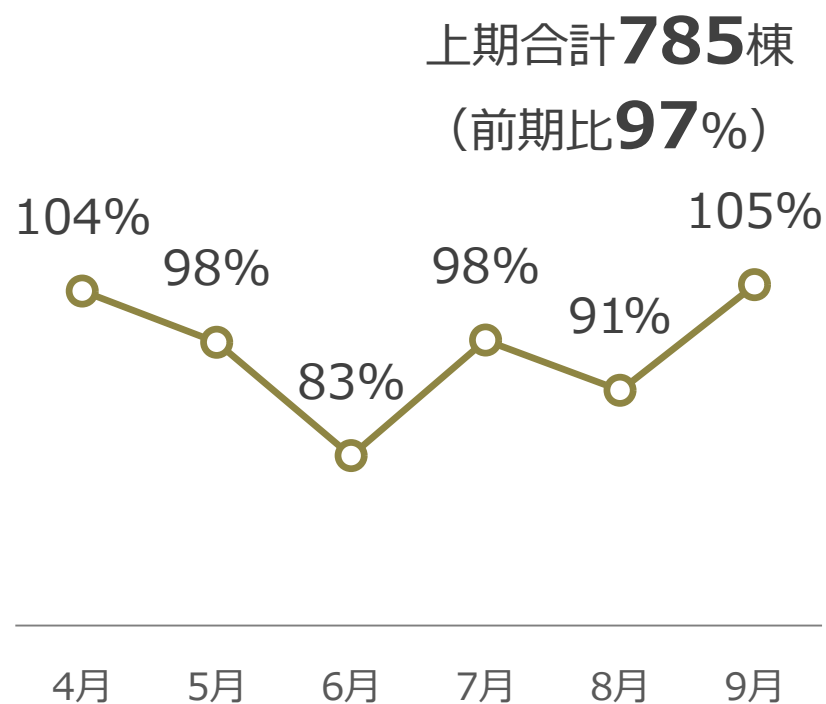
上期における新型コロナウイルスの影響

- 構造計算出荷数への影響は7月までで、8月以降は順調に回復。
- SE構法出荷数は前期比6%減を見込んでいたが同3%減にとどまり、ほぼ前年並みとなった。

構造計算出荷数の前期比推移



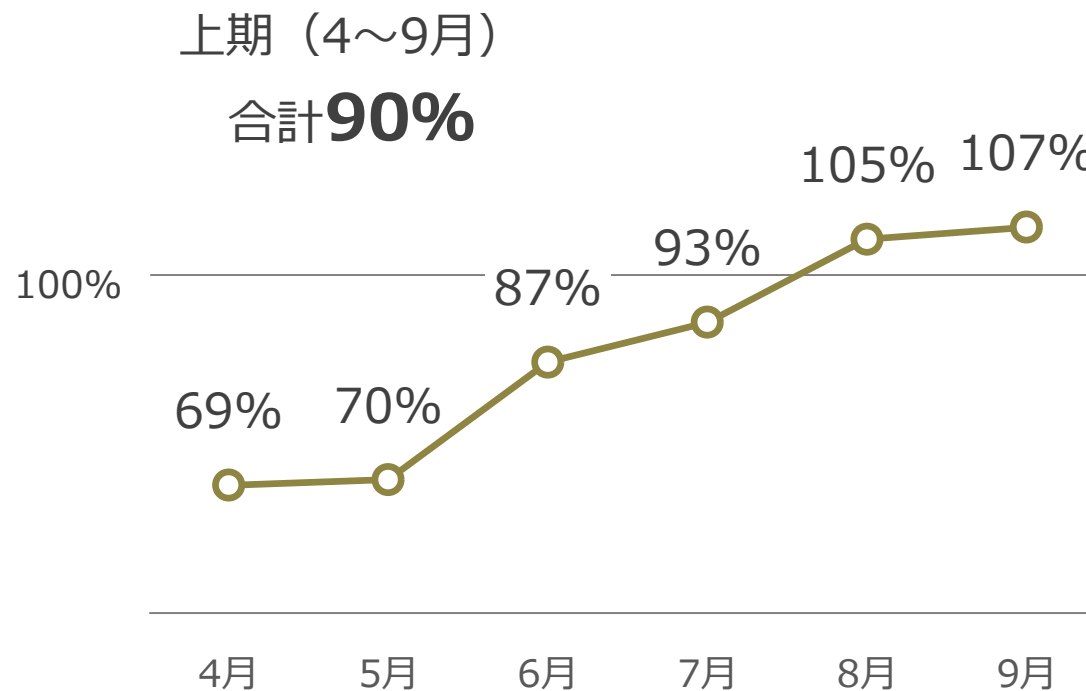
SE構法出荷数の前期比推移



【参考】住宅業界の受注動向

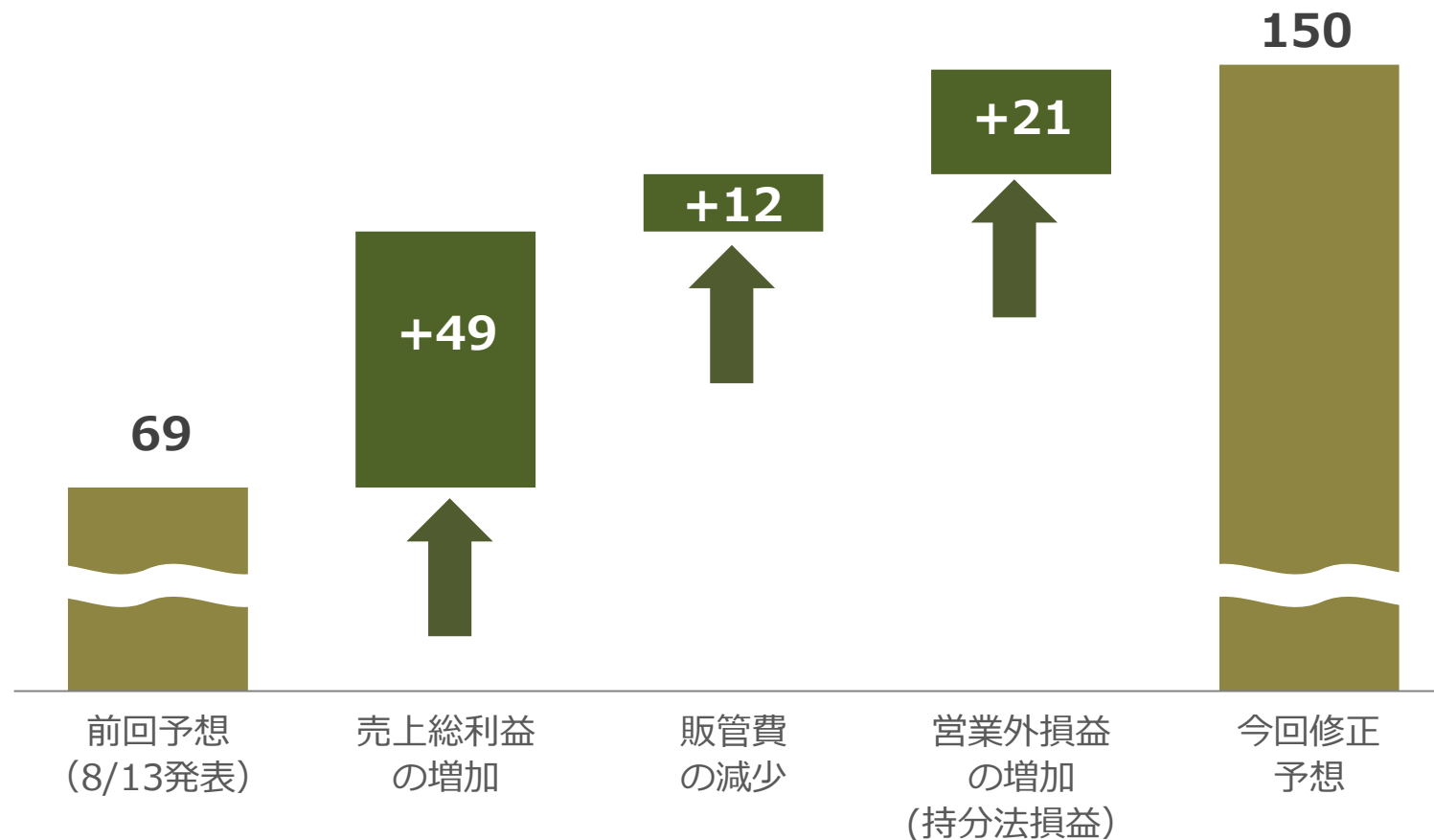
大手ハウスメーカーの受注状況も8月以降は前年を上回って推移しており、下期も回復傾向が続くことが推測される。

大手ハウスメーカー10社の受注伸率推移（棟数）



経常利益の差異要因（対前回予想）

経常利益が前回予想を上回った主な要因は、①売上高が想定を上回ったことに伴う売上総利益の上振れ、②販管費の減少、③持分法損益の上振れ。



販管費の状況（対前年同期比）



- 販管費は、新型コロナウイルス感染症の影響により営業経費が前期に比べて減少したものの、従業員給与など人件費については減額をおこなっていない。
- Webツールの活用も含め、販促・広告宣伝等の営業施策は必要に応じて適切に実行している。

(百万円)	21/3期 上期 修正予想	20/3期 上期実績	対前期 増減
販管費合計	636	650	△14
人件費	341	322	+19
営業経費 (旅費交通費等)	23	47	△24
販促費 広告宣伝費	71	61	+10
その他	201	219	△18

2021年3月期 通期連結業績予想 [参考]



通期の業績予想は、下期予想を精査中であるため、上期の修正のみ反映した数値としております。

配当予想と合わせて、修正が必要となった時点で速やかに開示いたします。

(百万円)	上期 修正予想	対前回予想 増減	下期予想	対前回予想 増減	通期予想 [参考]	対前回予想 増減	対前回予想 増減率
売上高	3,214	+114	3,520	±0	6,734	+114	+1.7%
売上総利益	767	+49	932	±0	1,699	+49	+3.0%
営業利益	131	+61	111	±0	242	+61	+33.9%
経常利益	150	+81	121	±0	272	+81	+42.8%
親会社株主に 帰属する当期 純利益	105	+64	85	±0	190	+64	+51.7%